

令和4(2022)年「正覚寺報」3月号

お知らせ

新型コロナ第六波も沖縄でははっきりと Peak Out(ピークアウト=頂上を脱して下り坂となる)になりました。近畿圏でもその傾向に入っています。第16回全国布教使大会で翻訳家の関講師の基調講演で「日本人は悲観的になり勝ちだ」と聞きましたが、気長に不織布マスクで予防に心がける自己管理を続け、やがて本当に安心できる日を迎えたときには、ご一緒にお御堂にお参りして、御尊前に直接歩みを運びたいものであります。 記

3月5日(土)10時半前住十七回忌 & 永代経

3月21日(月)14時、19時半正覚寺彼岸会

3月の仏壮お聴聞の会は3/5の永代経に、3/16予定の仏婦例会は、彼岸会に合同して営みます。

第十六回全国布教使大会に参加して

去る2月14日(月)は、13時~17時まで、オンラインによる ZOOM(ズーム)会議で、第十六回全国布教使大会に自坊から参加しました。

ご本山で営まれる事業への参加としては既に拝聴している「音御堂(おとみどう)」共々、遠方から出かけることもなく安全に参加させて戴けたことは有り難いことでした。

オンラインご法座は遠地にいらっしゃる御門徒の皆様との共感の出遇いの手段として考えていくことができれば幸いです。特徴は、

お聴聞の共有・共感の場であり、音楽もお聴かせ戴け、海外にも通じる手段であるという意味では、御門徒様のお気持ちに助けられれば住職にもそんなに難しいことではないと思われてなりません。

翻訳者の関 美和様の基調講演では、英語の原文を日本語に翻訳するのがお仕事であ

ることから云えることは、「最初から日本語で書かれているのではないか」と思わせる翻訳が目標であるとおっしゃいました。

ところが英語と日本語とでは、いわば、文章構造が逆である。

因みに、日本語では「今朝、卵を食べた」というところ、英語では、必ず「私は」と主語を建てる特徴があります。そのことから、翻訳では、「英語にはあっても日本語にない発想」は、思い切って割愛する。反対に、「英語にはなくても、日本語にある着想」は、思い切って追加するとのことです。

だからといって、専門家から見て違和感のない文章構造でなくてはなりません。

伝道現場ではどうか。「お念仏は本願招喚の勅命である」とは、キリスト教にない浄土真宗の特徴です。海外にない宗教構造をどうお伝えするか。これは知識次元の翻訳上の気遣いが成り立ち難い次元に関わります。

そのようなときは、どうするか。井上見淳コオーディネーターのお話では、「経験と比喻」の提供が大事だとおっしゃいました。人間の本质は国や時代が変わっても変わることがないからです。経験談と比喻を通して、いわば、如来様の働きに伝えられ手が直接お会い戴く仕方です。

本願力回向の代行は、頂戴して称えれば、凡夫の場に往相回向されて直ちに働かれる代行そのままを「ただ今」頂戴するところにお救いが成立すると頂戴できます(時剋釈)。

因みに、北米で最も人気を博する「マインドフルネスメディテーション」の心は「ただ今」と聞かせて戴くところでもあります。合掌。